
NPO法日本海洋深層水協会メールマガジン 第59号 (2013年6月30日)

NPO法人日本海洋深層水協会 メールマガ編集チーム

当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、各地のイベント、製品開発などの話題を、会員および一般の皆様へ、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行しています。

どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み” http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm

からお申し込みください。

なお、本年10月から非会員の方には3か月に1回の配信となります。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信しています。

読者の皆様で、メルマガやHPを通じて情報や話題を提供したいと思われる方は、メールで npojadowa@npojadowa.net まで、ご連絡ください。

目次 <協会制作記事> レジリエントな社会を目指して

レジリエントな社会を目指して

「日本の防災の課題と展望」、持続可能なレジリエント社会を目指して(東日本大震災と近年豪雨災害の教訓に学ぶ)という演題の講演会にたまたま参加しました。そこで聞き慣れない言葉「レジリエントな社会(レジリエンス:Resilience)」を聞いて、私なりに調べてみました。

これまでのメルマガの記事と趣がちよっと変わってしまいましたが、気になる言葉がありましたので、ここで紹介させていただきます。

レジリエンスという言葉 ～ 21世紀型の言葉? ～

心理学分野では、困難で脅威的な状況にも関わらず、うまく適応する過程・能力・結果のことをレジリエンスと言い、近年では、変化する状況や予期せぬ出来事に対して十分な適応を示し、利用可能な問題解決策のオプションを選択できるという拡張した意味で、レジリエンスの概念が整理されています。

これまでの自然災害への対策は、長期的に観測と蓄積されたデータを用いて災害外力を確率的に評価し、自然災害などの対策に導入する手法が確立されていました。自然の変動性が安定しており、定常的な確率過程であるという前提で確率論的に起きている自然災害に対して対処していくという考え方です。

今、そのやり方が不可能に近い時代、過去データでは推定できない時代がやってきているということのようです。これが「レジリエンス」とい言葉が出てきた背景にあるのです。

想定外という言葉

ここで余談ですが、東日本大震災のとき、国が原発事故の状況説明で多用した「想定外という言葉」について若干述べさせていただきます。

自然災害に「想定外」はあってはならないと思いますし、想定外で済むのであれば、国は？こんな楽な対処方法はありません。ただ単に予測出来なかった、予測以上のものであったといことで、災害で起こる事態を予測することができなかったということを暗に認めた様な言葉であり、もっと辛辣に表現すれば過失？をごまかすようなニュアンスさえ含まれているような気がします。自然災害に対して、こんな安易な言葉は使って欲しくありません。それが国民を守る発言であれば尚更です。

レジリエンスのある社会

これからは“レジリエンスのある社会”、レジリエントな社会づくりを目指す必要があります。そのためにはまず、これからの自然災害で起こる「想定外のリスク」の存在を明らかにする努力を国として行い、徹底したリスクアセスメントを実施する。専門家と現場実務者を養成しつつ、迅速に現場で対応するために専門家と協議の場を地域ごと設置するなど、リスクアセスメントから想定されることの対策を検討しながら、地域住民との合意形成を進めていく必要があります。決して「想定外」のままにして欲しくないと思います。

日本で災害の発生しなかった時代、高度成長期だけ。

日本は、なぜこんなに経済成長を遂げることができたのか？もちろん国民の皆さんがものすごく努力したことはもちろんですが、高度成長期に激甚な災害が発生しなかったことも事実です。

災害的には非常に安定した時代であったということが言えるのです。下の表に明治以降死者不

発生年	西暦	災害	死者・行方不明者	災害間隔
明治	12	1879 コレラ	105,784	
	17	1884 台風	1,992	5
	24	1891 濃尾地震	7,273	7
	29	1896 明治三陸津波	27,000	5
	32	1899 台風	1,410	3
	41	1908 天然痘	4,265	9
大正	3	1914 チフス	1,176	6
	6	1917 関東大水害	1,324	3
	12	1923 関東大震災	142,807	6
昭和	2	1927 北丹後地震	2,925	4
	8	1933 昭和三陸津波	3,064	6
	9	1934 室戸台風	3,246	1
	17	1942 台風16号	1,158	8
	18	1943 鳥取地震	1,083	1
	19	1944 東南海地震	1,223	1
	20	1945 枕崎台風	3,122	1
	21	1946 チフス	3,351	1
	22	1947 キャスリーン台風	1,529	1
	23	1948 福井地震	3,769	1
	23	1948 アイオン台風	2,794	1
	29	1954 洞爺丸台風	1,761	6
33	1958 狩野川台風	1,269	2	
34	1959 伊勢湾台風	5,098	1	
高度成長期				36
平成	7	1995 阪神・淡路大地震	6,434	
	23	2011 東日本大地震	約19000	16

明者が1,000人を超える災害等を表にまとめたものです。実に36年間災害が起きていないのです。日本にとってはまるで奇跡のような時代が続きました。

表 明治以降死者不明者が1,000人を超える災害等

覚悟しなければならない時代が始まっています。

災害が起こってから想定される被害には不確実性がたくさん含まれています。

私たちは、これから起こるかもしれない災害に対して、想定されていない何かが起こるかもしれない、ですから、突如として現れる自然災害に対して覚悟しなければならない、そんな時代が始まっています。

(環(わ))